

18番	富田 宗一 議員			
項目	市長の施政方針について		項目	
<p>(要旨)</p> <p>1. 目指すまちの姿について</p> <p>① 市長は施政方針説明の中では本市の財政状況については全く触れていなかったが、現在の状況をどのように把握し分析しているのかまず伺う。財政状況の把握がなければ、さまざまな施策も「絵に描いた餅」となりかねない。財務諸表はいずれも「健全」の範囲内にあるが、今後課題があるとすればどこが問題となってくると考えているのか。</p> <p>② 冒頭市長は「市民の皆さまの声をしっかりと市政に反映させていくこと、市民の皆さまに参加していただけるようなまちづくりを進めていくこと」という「市民参加のまちづくり」を掲げているが、歴代市長や市議会議員にあってもほぼ異口同音のことを市民に約束していると思う。もう少しその考えの実相を明確にし、これまでの市政の在り方とどう違いを出していくのか伺う。</p> <p>③ 「住む」の中で、「地域の様々な活動が活性化され、世代を超えた新しい活力が生まれ続けるまちを目指す」とされており。しかし、市長も触れられているように、本市は高齢化率が高く、地域の各種団体では世代交代が進まず、場合によっては活動そのものが停滞しているところもある。このような現状をどのように打破しようとしているのか、その道筋について伺う。</p>			<p>(要旨)</p> <p>④ 施政方針説明の中で「目指すまちの姿や実現に向けた施策」について様々話をされたが、旧小学校跡地（深川・東明）、旧山繁商店、瀬戸サイトといった解決していかなければならぬこれらの利活用について、市長が描く「目指すまちの姿」の構想にどう取り入れていくのか伺う。</p> <p>⑤ 「新たな技術の研究と共に」と言われたが、これまで培われてきた世界に誇る伝統の技術（職人の技）についても後世に伝えていく必要があるが、どの様に考えているのか伺う。</p> <p>⑥ 「地域産業である陶磁器製造、窯業関連と新たな技術、分野との融合連携」とあるが、どのような具体的施策を考えているのか。また、国の施策としてのカーボンニュートラルの推進を進めて行くがあるが、本市窯業は多くの熱源を必要とする。これをどのように両立させていくと考えるのか伺う。</p>	

18 番	富田 宗一 議員			
項目	市長の施政方針について		項目	
<p>(要旨)</p> <p>⑦ 高齢者の新たな移動手段の検討としては、今後、さらに高齢者の免許返納者が増加すると考えられる。現状の公共交通のシステムでは市民のニーズに応えることに限界があり、コミュニティバスのみならずデマンドタクシー、住民バスなどを地域の事情に応じて適正に配置していく必要があるが、どのように検討されていくのか伺う。また高齢者見守りシステムについてはどのようなシステムを考えているのか伺う。</p> <p>⑧ 支援を必要とする人が利用しやすい福祉サービスの提供を図る上で現在「真に効果のある障害者施策」が実施されている。効率化、質の向上を進め広げて行く為には当事者の方々の声をしっかり聴くことと財政的な担保が必須であるが、市長が公約で掲げられた「障害者手当の復活」とどう整合性を図っていくのか伺う。また、さらに時代に合った新制度として復活したいと言われるが、時代に合った新制度とはどのようなものを思い描いているのか伺う。</p>			<p>(要旨)</p> <p>⑨ 「今後の成長が期待される新産業分野や付加価値の高い産業の育成が地域の雇用の創出を図る」とは、具体的にどのような産業を指しているのか伺う。また、陶磁器や窯業関連産業と新たな技術・分野との融合・連携について、研究を進めていきたいとのことだが、具体的にどのように図りたいのか。また、販売や広報やネットワークについて、本市として施策展開を考えているのか伺う。</p> <p>⑩ 「日本遺産のまち瀬戸市ならではの特色ある有形・無形の財産や、多様な地域資源を活用した観光振興にも取り組んでいく」とのことだが、具体的な市内の地域資源のネットワークづくりが必要で、来訪者にとっての魅力の再発見や時代にあった散策ルートや回遊ルート、また地産地消である瀬戸ならではの食文化の楽しさなど、本市に二つあるインターを生かした「入口機能を」どのように捉え、観光客を迎え入れる環境整備をどのように考えているのか伺う。</p> <p>⑪ 「まちづくりは人づくり」という市長の政治信念の中で、人づくりの中で子どもに対しての施策としているのは何故か。また「自ら考え、学び、生き抜く力」を身に付けると言う事は、現在小中一貫教育を始め6次総の中で進められている施策そのままであり、市長の思いが伝わらないが、現状の事業をどう評価し、何を変えなければならないと考えているのか伺う。</p>	

18 番	富田 宗一 議員			
項目	市長の施政方針について		項目	
<p>(要旨)</p> <p>⑫ 「不登校を含む子ども達の多様なニーズに応じた決め細やかな教育を勧め、瀬戸で学び、瀬戸で育てて良かったと思える教育の実現に取り組む」とあるが、不登校・虐待が多くなっている現状としてはその背景にある要因を調査する事が重要であり、当事者である本人だけではなく保護者へのフォローが必要だと考える。この課題に関しては、教育関係のみならず、幅広い関係者が一同になり対策を行うべきと考えるが市長はどのように考えているのか伺う。</p> <p>⑬ 「小中一貫教育を進め、郷土と自らに誇りを持ち、多様な他者と協働して課題解決のできる人づくりに取り組む」と発言されている。にじの丘学園が開校し4年目に向け児童生徒数が予定数を上回る約1,100名の学校規模となり、環境整備により人気度や関心度も上がった。今後の学校の受け入れとしてハード面の態勢も早急に対応策を進めないと学力の向上にも影響が出ると考えるが、「課題解決のできる人づくり」の前に環境整備をどのように考えているのか。瀬戸で学び、瀬戸で育てて良かったと思える教育の実現に向け、どのように取り組んでいくのか伺う。</p>			<p>⑭ 「育む」について、「子どもを安心して産み育てられるよう、妊娠・出産・育児に関する様々なニーズに対して、適切な情報提供や支援、子育てサービスの整備充実について、切れ目なく行っていく」と発言されている。現在、住んでいる方はもとより、移住を考えている方にとって住みやすい環境とは、住みやすい魅力とは、住み続けたいまちとは、子どもを産み、育て、生活しやすい、すなわち移住環境のより整った受け皿づくりが必要である。具体的な住まい・教育・生活環境など自治体の総合的な支援が必要であり、より具体的な施策を打ち出さないと定住人口の増加に繋がらないと考えますが、地域のコミュニティづくり、また、公民館や地域力の今後の在り方や、環境の魅力向上に向けた施策について伺う。</p> <p>⑮ 施政方針で「市民生活の利便性の維持・向上のため、幹線道路を整備し」とされているが、整備計画はどのように今後考えていくのか伺う。</p>	

18 番	富田 宗一 議員	
項目	市長の施政方針について	項目
<p>(要旨)</p> <p>2. ごみ行政のあり方について</p> <p>① 瀬戸市の設置する各種審議会の位置付け、意義をどうお考えか伺う。今回、市民の代表で設置された「瀬戸市環境衛生審議会」は、ゴミ減量策について諮問を受け、1年を超える議論の末「早期に有料化の推進を図られたい」との答申を出している。審議の間には「適正負担調査」として市民アンケートも行われ、「やむなし」も含め約60%が賛成されている。これらの民意、市民意見をどう解釈しているか伺う。</p> <p>② ゴミ処理の問題は、家庭系ゴミのみならず事業系、産業廃棄物など多岐にわたり、昨今喫緊の課題としてプラゴミの海洋汚染も深刻化している。これらはすでに我が国一国の問題ではなく、世界的に解決すべき課題となっている。本市のこのゴミ排出量削減施策は、目先の目標達成だけでなく、その先の限りない排出削減につなげていく必要がある施策と考えている。それがひいてはSDGsの理念にも合致し、カーボンフリーの目標にも合致し、なによりも我々の子孫に対する負担軽減という責務の達成にも寄与するものと考えている。行政を預かる政治家として、大きな視点で事象をとらえることも必要であると考えているが見解を伺う。</p>	<p>(要旨)</p> <p>③ 施政方針では、ゴミ袋減量施策について「有料化そのものに反対しているわけではない」と述べている。やみくもな反対の立場ではないことは評価するが、ならば有料化をまず実施し、その結果や成果を見てから値下げか有料化継続かを判断すべきではないかと考えるがいかか。その方が、施策が有効かそうでないかがはっきりさせられるのではないか。</p> <p>④ ゴミ袋有料化については、「値上げに至る背景や経過について市民の皆さまにもっと深く理解していただく必要があった」として「凍結」を打ち出された。そもそも「凍結」とはどのような意味合いなのか。我々は市民の皆さまに深くご理解いただければ有料化するということと解釈するが、そうであるならば今後どのようにご理解していただくのか。またどのような状況となれば「深くご理解いただけた」と判断するのか伺う。</p>	

18番	富田 宗一 議員		
項目	市長の施政方針について		項目
<p>(要旨)</p> <p>⑤ 市長は「尾張旭市・長久手市と足並みを揃える必要がある」とマニフェストで述べておられますが、すでにひとり当たりの一日のゴミ排出量に大きな差があり、行政面積や人口構成、財政力にそれぞれ違いがある中で、具体的に何をどう足並みを揃えるべきと考えているか伺う。足並みを揃えると言うならば、我々はまず、尾張東部衛生組合構成3市の家庭系ゴミ1日1人当たりの排出量そのものを揃えるべきと考え、有料化はそのための施策のひとつと捉えているのがいかがか。</p> <p>⑥ ゴミ収集施策は自治法により、各自治体の単独事業として位置づけられている。すでに本市より大幅なゴミ減量を達成している尾張旭市や長久手市が有料化を導入しないからといって瀬戸市もしない理由とはならないと考える。全国でいえば約6割、愛知県下でも半分の自治体が導入しており、減量の成果を上げていていると聞いている。今後も制度導入を図る自治体も増えてくると考えるのがいかがか。</p> <p>⑦ 環境省環境再生・資源循環局が令和2年3月16日に各都道府県の廃棄物担当部局に宛てた、「廃棄物の減量その他適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針の改定について」とする事務連絡の中で、廃棄物処理法に基づく循環基本計画において「1日1人当たりの家庭系ゴミ排出量」を2025年度に1日1人440gを目標とすることを確認している。あくまで『目標』では</p>		<p>(要旨)</p> <p>あるが、本市現状に対し手を拱いていれば、とても2年後に立てられる目標にはなり得ないと考えるが、市長の見解は。</p> <p>⑧ 有料化を導入しない場合、市長はどのような施策をもって国や県の示すような、あるいは長久手市、尾張旭市と同等の目標値までの減量化に取り組もうとされているのか伺う。</p> <p>⑨ ゴミ処理事業にかかる費用支出は、有料化して捻出するか、税金の形で集めた一般財源を充てるかとなり、いずれにせよ市民の負担には違いない。つまり直接か間接かの違いだけである。もちろん有料化収入だけですべてが賄えるものでもないし、将来的に安定した収入でもないことは承知しているが、少なくとも有料化すればゴミ排出量に応じて応分の負担が求められ、受益者負担の原則からも公平性が保てるかと考えるのがいかがか。</p>	

18番		富田 宗一 議員	
項目	市長の施政方針について	項目	市長のマニフェストより
<p>(要旨)</p> <p>⑩ 本市のゴミ減量施策に全市民が一体となって取り組み、その実を挙げるためと考え、有料化が可決されたのと同時に瀬戸市議会として付帯決議を議決した。法的拘束力はないとはいえ、この付帯決議についてはどう取り扱っていくつもりか伺う。また、議会が開催してきた「せとまちトーク」などでも、市民の声として「資源ゴミの週1回収集と収集場所の増設」の意見が多く、これを政策資源とした当時の総務生活委員会が提言を提出している。これについてもどう対応していくのか伺う。</p>		<p>(要旨)</p> <p>① この度の選挙で、市長はいくつかのマニフェストを掲げられ、市政方針の中では「短期的に取り組めるものや、中長期的視点で取り組んでいくものがある」とされています。今回、ゴミ袋についての議案は提出されましたが、「市長退職金の廃止」などは、とくに市民の意見を反映させる必要もなく、ご自分の任期に限ってであれば市長の一存でも提出できる案件だと思うが、なぜ提出されなかったのか。また他のマニフェストについて短・中・長期と分けて取り組むとされるならば、「障害者手当の復活」「医療費18歳まで無償」「子育て支援金や出産一時金の上乗せ」「給食費中学まで無償」などの優先順位、スケジュールをどのように考えているのか伺う。</p>	